

ジオ・コスモス コンテンツ コンテスト 2015 開催決定

日本科学未来館の球体ディスプレイ「ジオ・コスモス」に映す映像を募集

応募期間: 平成27年6月10日(水)～8月17日(月)

にっぽんかがくみらいかん

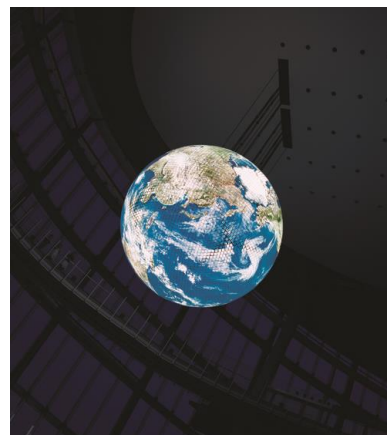
日本科学未来館(略称: 未来館、館長: 毛利衛)は、「ジオ・コスモス コンテンツ コンテスト 2015」を開催いたします。これに伴い、平成27年6月10日(水)より作品募集を開始します。

本コンテストはジオ・コスモスという球体ディスプレイの新たな可能性や表現方法を切り拓くことを目指して、平成26年にスタートしました。第1回目の昨年は、67点の応募作品の中から5点を選出し、うち2点をジオ・コスモスの常設コンテンツとして上映しています。

第2回目の開催となる今回は、「地球の時間 / Time on the Globe」をテーマに、15秒の映像コンテンツを募集します。大賞に選出された作品は1年間、ジオ・コスモスの常設コンテンツとして日本科学未来館で上映されます。

コンテンツクリエイションを通じた人と人との新たなつながりを生み出すことを視野に、未知の映像表現に挑む新たなコンテンツを広く募ります。

是非、貴媒体でご紹介いただけますよう宜しくお願いいたします。



球体ディスプレイ「ジオ・コスモス」

■ 概要 ■

- 名 称** ジオ・コスモス コンテンツ コンテスト 2015
- 内 容** 日本科学未来館のシンボル展示である球体ディスプレイ「ジオ・コスモス」の新たな可能性や表現方法を切り拓く映像コンテンツを募集します。
- テ ー マ** 「地球の時間 / Time on the Globe」(毎正時に上映する15秒の時報コンテンツになります)
- 応募期間** 平成27年6月10日(水)～8月17日(月)18時〆切
- 応募資格** 企業・団体あるいは個人・グループ、年齢、性別、職業、国籍は問いません。ただし、指定のフォーマットで映像制作することが可能な方に限ります。
- 応募方法** 下記の特設サイトで応募方法を確認のうえ、応募フォームから応募してください(郵送での応募は受け付けておりません)。**【特設サイト URL】** <http://www.miraikan.jst.go.jp/sp/gc3/>
- 賞** 大賞(1点)、入選(5点)
大賞作品はジオ・コスモスの常設コンテンツとして1年間、日本科学未来館で上映されます。
- 審査委員** **【審査委員長】**毛利衛(日本科学未来館 館長)
【審査委員】インゴ・ギュンター(アーティスト)、小久保英一郎(天文学者)、ジェフ・ミルズ(DJ/テクノプロデューサー)、辻川幸一郎(グラフィックデザイナー/映像作家)、長谷川踏太(Wieden+Kennedy Tokyo エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター) ※五十音順
- 審査の流れ** **【一次審査】**応募書類によって審査が行われます。
一次審査を通過した応募者は、ジオ・コスモスに上映する映像を実際に制作します。
【本審査】ジオ・コスモスに上映した作品を見ながら行い、各賞を選出します。
- 授 賞 式** 平成27年10月13日(火)
- 主 催** 日本科学未来館

※本件に関するプレスリリース、及び画像は未来館ホームページよりダウンロードしてご利用いただけます。

URL: <http://www.miraikan.jst.go.jp/press/>

応募者のお問い合わせ先	報道関係者のお問い合わせ先
日本科学未来館 ジオ・コスモス コンテンツ コンテスト 事務局 E-mail gc3@miraikan.jst.go.jp	日本科学未来館 事業部 展示企画開発課 広報普及担当 (press@miraikan.jst.go.jp) 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL: 03-3570-9192 FAX: 03-3570-9150

[開催スケジュール]

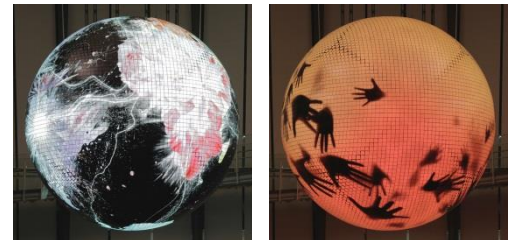
- 応募** → 6月10日(水)～8月17日(月)18時〆切
- 一次審査** → 8月下旬 応募書類、絵コンテによる選考を行います。
- 一次審査結果通知** → 9月初旬 応募者全員へ結果を通知します。
- 映像制作** → 9月初旬 ※一次審査通過者へはジオ・コスモスで映像制作をするための技術説明会を実施します。映像制作期間は約一ヶ月を予定しています。
- 本審査** → ジオ・コスモスに実際に作品を上映して審査を行います。
- 発表・授賞式** → 10月13日(火) 日本科学未来館にて授賞式を行います。
- 作品公開** → 10月下旬を予定しています。

[ジオ・コスモス コンテンツ コンテストとは]

本コンテストは、多角的な視点から生命と地球の未来を考える日本科学未来館の「つながり」プロジェクトの一環として開催するものです。プロジェクトの基幹ツールである球体ディスプレイ「ジオ・コスモス」の新たな可能性や表現方法を切り拓くことを目指し、平成26年から始まりました。第1回目の昨年は、67点の応募作品の中から、5点を選出し、うち2点をジオ・コスモスの常設コンテンツとして上映しています。

大賞作品は、ジオ・コスモス の常設コンテンツとして1年間、日本科学未来館で上映されるほか、日本科学未来館の公式WEB サイトでの動画公開や、海外の科学館やアートセンターなどで上映の可能性があります。

※平成26年度実績：オーストリアの「アルス・エレクトロニカ・リンツ」にて受賞作品を上映しました。



昨年の受賞作品 「Glow of life」(左)、「Human beats」(右)

[ジオ・コスモスとは]

「ジオ・コスモス」は、日本科学未来館のシンボル展示であり、世界初の「地球ディスプレイ」です。宇宙から見た輝く地球の姿を多くの人と共有したいという館長毛利衛の思いから生まれました。直径約6m、有機ELを用いた世界に類のない高精細球体ディスプレイは、1000万画素を超える高解像度で宇宙空間に輝く地球の姿をリアルに映し出します。

「ジオ・コスモス」は、球面上に上下左右が切れ目なくつながる球形の映像を映すことができる、特殊な映像デバイスです。球形であるがゆえに、映像はあらゆる方向から眺めることができ、平面映像のように正面が存在しません。そこには従来の平面ディスプレイとは異なるとても自由、そして新しい映像表現の可能性があります。このようなデバイスは、常設のものとしては世界中を見渡しても他になく、唯一無二のデバイスと言えます。

[「つながり」プロジェクトとは]

科学情報を視覚化し、感性に届く表現によって共有することで、今の地球、今の自分についての「知」を深め、未来のビジョンをともに作り上げることを目指すプロジェクトです。地球の生態系のなかのさまざまな生命と自分との「つながり」に目を向け、今ある豊かな地球を未来につないでいくために何をすべきか考えていきます。

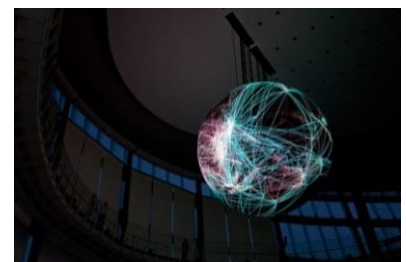
ジオ・コスモスは、「つながり」プロジェクトの基幹ツールで、地球に関する研究データやアーティストの表現、また世界中の人々からのアイデアをとりこみ、つながりを軸とした新しい地球像を描いていきます。

科学情報を視覚化した作品として、以下のようなコンテンツが上映されています。

■「軌跡 ～ The Movements」

移動にまつわるさまざまなデータから、人類が歴史のなかで歩んできた軌跡を印象的に描きだす映像作品。

https://www.youtube.com/watch?v=NzjBPua228Q&list=PLkb9PWPgGLJc5g5DkS8W_yqI5YfJ9qO



「軌跡～The Movements」

[ジオ・コスモスの主要スペック]

- ・発光デバイス: 有機EL(96mm角/パネルが10,362枚)
- ・サイズ: 直径約6m(地球の約200万分の1) ・重さ: 約13t
- ・画素数: 1,000万画素以上 ・内部構造: ジオデシック正八面体モデル

[審査委員]
■審査委員長

毛利 衛 (日本科学未来館 館長)

1948 年生まれ。理学博士。北海道大学助教授を経て、85 年に日本初の宇宙飛行士に選抜される。92 年と 2000 年スペースシャトル「エンデバー号」に搭乗し、宇宙実験や地球陸地立体地図作成データ取得を行った。2000 年日本科学未来館初代館長に就任。03 年しんかい 6500 に搭乗し深海での科学実験を遂行。同年、南極で皆既日食の生中継を行う。11 年「つながり」プロジェクトを始動。専門は核融合材料科学、真空表面科学、宇宙実験、科学コミュニケーション。

■審査委員 (敬称略、50 音順)

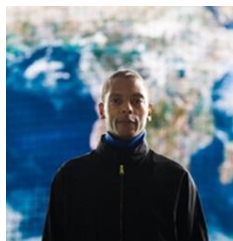
インゴ・ギンター (アーティスト)

ドイツ生まれ、ニューヨーク在住の新しいメディアを素材とするアーティスト。アートとジャーナリズムにおけるマッピングとデータの視覚化についてのパイオニアとの評価が高い。その作品は世界 20 カ国以上で展示され、国際機関や美術館に收藏されている。地球儀上にさまざまな世界的データをグラフィカルに示した「ワールドプロセッサー」シリーズは、「Geo-Cosmos (ジオ・コスモス)」で上映する映像作品にもなっている。

(写真: @2009 Elias Hassos)


小久保 英一郎 (天文学者)

国立天文台理論研究部教授、天文シミュレーションプロジェクト長。東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修了。博士(学術)。専門は惑星系形成論。理論とシミュレーションを駆使して惑星系形成の素過程を明らかにし、多様な惑星系の起源を描き出すことを目指す。コンピュータグラフィックスを用いて宇宙を 4 次元的に目の当たりにすることを目指す 4 次元デジタル宇宙プロジェクトも手がける。


ジェフ・ミルズ (DJ/テクノプロデューサー)

テクノプロデューサー/DJとして世界で最も優れた人材といわれる。1984 年にラジオ局 WDRQ の DJ としてキャリアをスタートして以来、デトロイト・テクノを代表する存在として、エレクトロニック・ミュージックシーンに限らずその影響力は絶大。自ら設立したレーベル Axis Records ではおもにサイエンス・フィクションからインスパイアされ、タイムレスな楽曲を制作し続けている。傑作映画「メトロポリス」の新しいサウンドトラック担当やポンピドゥーセンターでの展示など、シネマ、ビジュアルからパフォーマンスに至るまで、そのアーティストとしての活動は音楽にとどまらない。2013 年 3 月には、日本科学未来館のシンボル展示「ジオ・コスモス」の音楽を手がけた。

(photo by 葛西 龍)


辻川 幸一郎 (グラフィックデザイナー/映像作家)

CD ジャケットや本の装丁などのアートディレクターとして活動をはじめ、友人のミュージシャンの MV 制作を頼まれた事から映像制作をはじめ。現在では CM、MV、ショートフィルム、などの映像作品を中心に、web やグラフィックなどの企画など様々なジャンルで国内外問わず制作中。これからも。


長谷川 踏太 (Wieden+Kennedy Tokyo エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター)

英国ロイヤルカレッジオブアート(Royal College of Art)、インタラクティブデザイン科卒。その後、ソニー株式会社勤務を経て、英国ロンドンに本拠を置くクリエイティブ集団 tomato に所属。インターネット広告やコーポレートアイデンティティなどの分野でインタラクティブな作品を発表。個人としての活動領域も、アート、文筆、教育など多岐にわたる。2011 年春から拠点をロンドンから東京に移し、ワイデン+ケネディ トウキョウのエグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクターに就任。